

報道関係各位

2024 年 9 月 30 日
日本貿易振興機構(ジェトロ)
茨城貿易情報センター

ジェトロ茨城、サンフランシスコ「SAKE DAY '24」にて茨城県産日本酒を PR

独立行政法人日本貿易振興機構 茨城貿易情報センター(所長 河内 章、以下「ジェトロ茨城」)は、2024 年 9 月 28 日(土)にサンフランシスコのジャパントウンで行われた米国消費者向けの日本酒試飲イベント「SAKE DAY '24」にて、公募にて採択された県内酒蔵の日本酒を PR するジェトロ茨城日本酒ブースを出展しました。また、本イベントに合わせて、サンフランシスコやその近郊の小売店やインポーターに営業活動なども行い、日本酒の新たな市場開拓を図りました。

<日本酒市場と輸出動向>

ジェトロ茨城では茨城県酒造組合と共に茨城の酒の輸出に取り組んでおり、本事業は日本酒の主要輸出先である米国市場開拓を目的として実施しました。日本国内の日本酒消費量は昭和 48 年のピーク時には 170 万 kl を超えていましたが、他のアルコール飲料との競合などにより減少傾向で推移し、令和 5 年には約 39 万 kl まで減少しています。一方で輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、令和5年における日本酒の輸出先国は 75 か国、このうち、米国、中国、韓国、台湾、香港の 5 か国・地域で数量及び金額の7割以上を占めており、米国は最大の輸出先となっています¹。

<SAKE DAY>

「SAKE DAY」はサンフランシスコ市で現地の人々に 20 年以上も前から日本酒の魅力を伝えている「True Sake」が主体となり、10 月 1 日の「日本酒の日」²の式典として、2005 年から毎年 10 月 1 日またはそれに近い土曜日に開催されています。輸入事業者、販売事業者、日米の酒蔵など、50 を超える企業・団体が出展し、参加者は、会場でおちょこを片手に、自由に出展者の日本酒を楽しむことができます。ジェトロ茨城は 2023 年 9 月に第 1 回「酒サムライ」の叙任者として知られる True Sake 創設者のボー・ティムケン氏を茨城県に招聘し県内 8 蔵との商談を実施、この招聘を契機として 2024 年度の「Sake Day '24」への招待を受け、ジェトロ茨城日本酒ブースの出展へとつながりました。

<茨城県からの出品と来場者の反応>

茨城日本酒ブースには公募にて採択された合同会社廣瀬商店(石岡市)の「白菊 純米原酒(グリーンラベル)」「鐵舟しらぎく純米原酒」、株式会社剛烈酒造(常陸太田市)の「剛烈 純米吟醸」「剛烈 純米酒」(いずれも米国未発売)を出品しました。

¹ 令和 6 年 6 月 農林水産省「日本酒をめぐる状況」

² 新米が収穫されて新酒が醸される時期であることなどから、日本酒造組合中央会が 1978 年に定めた。

合同会社廣瀬商店の八代目 廣瀬 慶之助 専務取締役は出品にあたり「SAKE DAY'24 に出品することで、西海岸の多くの方に茨城の地酒の魅力を知っていただくとともに、未開拓の米国西海岸への輸出の足がかりにしたい」と意気込みを語っています。また株式会社剛烈酒造の鈴木勝則製造部長は「時代に流されることなく、酒造りの本質を見つめ、手作業で本物の味を追求して参りました。辛口で豪快な味わいのなかに芳醇な香りを感じられる酒を、ぜひ米国の消費者に味わっていただきたい」と述べています。

当日の来場者からは「茨城の日本酒は初めて飲んだが、どの銘柄も香りが良く美味しかった」、「週の半分以上は日本酒を飲む程の日本酒好きであるが、とても気に入った銘柄が見つかった。是非米国でも販売してほしい」といった感想が寄せられ、米国市場における茨城県産日本酒の可能性が感じられました。

ジェトロ茨城では今後も茨城の酒の海外展開を積極的に応援していきます。

<SAKE DAY '24 - ジェトロ茨城ブースの様子>



【本件に関する連絡先】

ジェトロ茨城貿易情報センター 担当:河内

〒310-0802 茨城県水戸市柵町 1-3-1 茨城県水戸合同庁舎 4 階

TEL: 029-300-2337 E-mail: IBR@jetro.go.jp

以上